

# 令和元年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

## 第2学年

教科	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の達成率は、76%であった。話すことについては、場に応じて声の大きさを考えたり聞いている人を見て話したりする児童が増えた。聞くことについては、少しずつ話している人の目を見て、聞くことができるようになってきた。手遊びをしたり、違うことを考えたりして、話を聞き逃す児童がいる。 【話すこと・聞くこと】</li> <li>・1学期の達成率は、91%であった。読書カードを活用し、読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりしたことで、読書活動に親しむ児童が増えた。しかし、物語文や説明文の読解力に個人差が見られ、読み取りが苦手な児童が10%程度いる。【読むこと】</li> <li>・漢字の学習の進度を早め、反復練習をする機会を多く設けた結果、達成率は、昨年度81%から90%と上がった。しかし、既習した漢字について、筆順が曖昧になっている児童が多数見られる。また、表記については、助詞の使い方や句読点の打ち方、かぎの使い方に課題がある児童がいる。【言語事項】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すときは、聞き手を意識することや、聞くときに話をしている人を見ることを、繰り返し声かけを行いながら、児童に意識付けていく。また、話の内容を児童の言葉で表す機会をつくり、聞いたことの確認を行っていく。</li> <li>・朝読書や図書の時間をしっかり確保し、読書検定を行うことで、子どもたちの読書に対する意欲を高めて、読書量を増やす。</li> <li>・読み取りの際に絵や図などを使って、登場人物の気持ちや文の構成などを整理しながら視覚的に捉えさせる。場合によってはワークシートを使い、整理して考えられるようにする。</li> <li>・漢字指導では、字形や筆順に気を付けて書くことができるように、ICT機器などで書き順を確認しながら丁寧に指導を行う。</li> <li>・語と語、文と文のつながり方や、かぎかっこの使い方、句読点の打ち方については、電子黒板などのICT機器を使いながら視覚的で分かりやすく提示して、正しく表記できるように繰り返し指導をしていく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の達成率は82%であった。自分の考えをもつことはできるが、友達に分かりやすく伝えられる児童は少ない。友達の意見を聞き、よりよい考えを見付けることに課題がある。【数学的な考え方】</li> <li>・「100より大きい数」の学習では、実物操作を行うことで、ほとんどの児童がまとまりで考えることができた。長さの学習で、ものさしを適切に使い、長さを測ることが苦手な児童が10%程度いる。 【技能】</li> <li>・かさの単位や長さの単位を適切に選択することが苦手な児童が20%程度いる。【知識・理解】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数用語をすすんで使うように促したり、説明するうえでのキーワードを「ことばの森」というように整理したりし、日々の活動に役立つようにする。</li> <li>・東京ベーシックドリル等の学習プリントにくり返し取り組んだり、身近なものの長さを測る測定活動を取り入れたりすることを通して、正しく測定できるようにする。</li> <li>・ICTを活用して正しい測定の仕方が理解できるようにしていく。</li> <li>・東京ベーシックドリル等の学習プリントや視覚的に分かりやすい掲示物を用いて繰り返し指導をしていく。</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>生 活</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜を育てることに関心が高く、土づくりや水遣り、観察を積極的に行っていた。児童の中には、虫を怖がったり、ミニトマトの苗木を鉢植えに入れる要領が分からず、戸惑ったりする児童が見られた。 【関心・意欲・態度】</li> <li>・ミニトマトの観察を通して、観察カードに文章や絵でかく内容が増えた。しかし、葉のつき方やぐくの場所など、詳しく観察して、気付いたことを工夫して表現しようとする児童は少ない。 【思考・判断・表現】</li> <li>・ベランダにミニトマトやピーマンをおいて毎日観察したので、植物の成長にたくさんの気付きが見られた。 【気付き】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と触れ合う機会が少ない児童が多いので、体験を重視したり、日頃から、動植物に関する話題を取り入れたりして、身の回りの自然に目を向ける姿勢を育てていく。</li> <li>・図鑑などを活用して、動植物に関する情報を紹介したり、児童自ら調べる機会を多く取り入れたりしていく。その際、観察の視点を示すことで、詳しく観察できるようにする。そして、クイズ形式などの様々な表現の仕方を紹介し、児童の表現する方法の選択肢を増やしていく。</li> <li>・身近に動植物を観察できる環境をつくり、成長の様子を日々の話題として、気付きを促していく。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>体 育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まりを守り、安全に楽しく運動ができる児童が多い。 【関心・意欲・態度】</li> <li>・友達の良さを見つけ、工夫して運動することが苦手な児童が多い。 【思考・判断】</li> <li>・マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がりが苦手な児童が20%程度いる。 【技能】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に楽しく運動するために、場の設定の仕方や運動の仕方については、ホワイトボードや実際に動いて見せることで、きめ細かく伝えていくようにする。</li> <li>・めあてを確認し、授業の見通しをもたせる。チームカードや、振り返りカードを活用し、意図的に友達の良さを見つけたり、運動の工夫の仕方を考えたりする。</li> <li>・傾斜のある場所で勢いをつけて転がるように取り組んだりして、手を置く場所を印で示すなど場の設定を工夫する。</li> </ul>